1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界関係団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を行う。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

上記基本方針に則り、校長の下に教育課程編成委員会を置き、全学科の教科構成について、実務における重要事項が該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。指摘を受けた内容について、各学科にて詳細検討を行い、改善項目を校長に報告する。校長は教育課程編成委員会委員にその旨を伝達する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2019年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
坂本　　敏	中央動物専門学校　校長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	
佐藤　洋子	中央動物専門学校　教務部長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	
渡来　純如	中央動物専門学校　教員室長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	
小澤　琢爾	公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）事務局主任	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	①
齋藤　栄輝	株式会社ペピカ　業務部部長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	③
對馬　由希子	株式会社トーリーメイト　営業部　トリミング部門　主任	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	③
笹井　利浩	北千東動物病院　院長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	③
溝口　健太	ワラビー動物病院グループ　取締役事務長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	③
高橋　三行	社会福祉法人 泉陽会　新町光陽苑　施設長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	③
榎本　　修	株式会社セラフ榎本　代表取締役	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回　6月・1月

（開催日時）
第1回　2019年6月19日（火）　14:00～16:00 予定
第2回　2020年1月15日（火）　14:00～16:00 予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会より出された意見は、翌年度の教科構成に反映させる。

・動物医療業界も往診は多いが、今後、動物病院でも、遠隔地での診療が可能になるオンライン診療の導入が見込まれる。そのため、動物看護師がソフトを扱えるような教育やシステムの構築を検討していただきたい。
【意見対応状況】⇒1年次のパソコン演習では、word、excelによる情報を整理する技術を身につけている。ここ数年、パソコンの基本操作に不慣れな学生は少ない傾向にある。また、動物看護系の実習において、CRシステムのレントゲン撮影でも同様である。これは、スマートフォンやタブレット端末など日常的に触れる機会が多いことが挙げられる。今後、CBTによる学習システム導入を検討しており、ICTを活用した医療形態への一助になればと考えている。
・他の専門学校の学生が、長期休暇中ではなく、今の時期に就職研修に来院したが、本校の学生はいつからというのはあるのか。
【意見対応状況】⇒本校は学校でしっかり教育し、夏期休暇期間等、授業のない日に集中して研修に出している。他校で実技スタイルが学内にない学校は1年で座学、2年で企業研修（実習）に出していると思われる。
・動物看護師の基礎力、会話力不足により、話が伝わらないケースが散見されている。動物病院という特殊な環境の中でのビジネスマナーの習得を教育の中で、より強化することを検討していただきたい。
【意見対応状況】⇒1年次の一般教養で身だしなみや挨拶など基本となるビジネス・エチケットを身につけ、2年次のコミュニケーショントレーニングでは、受付・電話応対など院内コミュニケーションをロールプレイングにより習得している。さらに飼主の気持ちに寄り添った応対ができるよう、グリーフへの理解とその基本態度を身につけることを目標としている。今後、獣医療スタッフ間での情報共有やコミュニケーションスキル向上を図るため、動物看護系の実習では、検査結果や臨床症状の報告を全ての学生が行うなど機会を増やす工夫をする。
・美容、看護に比べ明確な概念がでていない。カリキュラムを見ても、広範囲なようで広範囲ではない。動物共生関連科こそ、多様な教養をつけるカリキュラムを組んでいかないと厳しいと思われる。
【意見対応状況】⇒あらゆる場面で活躍できる動物のコーディネーターの育成を目標とし、「ホームヘルパー・動物介在実習」「建築住環境実習」「アニマルアロマ概論」等の他校にはないカリキュラムでニーズに答えられる人材の育成を目指している。その効果もあり、ペットショップや動物病院は当然のこと、それ以外にも福祉施設、不動産会社、建築関係企業、動物園、牧場施設等の多岐にわたる分野への就職を実現している。
・全体的に学生はサービス業であるという意識が余りにも低いと感じる。また、サービス業が何であるかを明確に答えられない者もいる。
【意見対応状況】⇒卒業生による講義などで現場や実務の状況を話してもらう機会を増やし、また、インターンシップの活用により現場でのサービスの現状を肌で感じる実習を今後も継続していく。
・多様な学習、多様なカリキュラム、人間の幅を持たせるような科目の作成を切望する。
【意見対応状況】⇒今後も第一線で活躍されている委員の皆様の意見や情報をもとに、より良いカリキュラムの開発を進めていく。
・日本の少子化は現在も進行している。留学生、とくにアジア系の留学生は、日本の商品、技術、接客技術に憧憬の念を抱いていると思われることから、留学生募集への注力も得策であると考える。
【意見対応状況】⇒法人内に留学生センターを設置し、中国、韓国、台湾に紹介事務所を設置している。直接留学生も募集しているが、コミッション料が発生するためコストがかかる。さらに、動物系分野は就労ビザがおりないため、ペット系企業に正社員で雇用されても、就労ビザを取得できないケースもあった。経済的に恵まれている留学生で、起業し経営管理ビザを取得した者もいるが、稀なケースである。
・中国・韓国のインターン生を受け付けた際、すごく真面目で意欲的で良かった。今後留学生の就労を考えていく。
【意見対応状況】⇒本校は10名弱の留学生が在籍している。一生懸命でハングリーで頑張っているが、就労ビザが下りないのが現状。建設業、介護・福祉、サービス業（飲食）の人材不足と言っているが、ペット業界も人材不足ということを業界あげてアピールして頂きたい。
・学校側でペット業界の現状や、将来性の話はもちろん、クレーム対応や、チームプレイ等コミュニケーション能力の授業強化をお願いしたい。
【意見対応状況】⇒コミュニケーション能力等について、時間割の日数等含め、更に強化していきたい。
・ペットを飼っていない、飼えない家庭が増えている。そこが、ペット業界が厳しくなってきている部分でもある。一緒に生活すると楽しいという事を小学生等、高校生より下の世代へのアプローチが必要。
【意見対応状況】⇒年に数回だが、共生科の学生有志により北区教育委員会の後援を頂き小学校低学年の児童、幼児を対象にふれあい体験を開催している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要があり、
そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。
連携を行う企業とは、職業教育協定書（教育事業受託契約書）を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

上記基本方針に則り、次の項目について連携を行う。
①カリキュラムの作成　②講義及び実習の実施　③講義・実習教材の作成
④成績評価及び進級審議等に関する助言　⑤その他の実習運営上に必要となる事項

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
一般教養	社会人として必要な一般知識、人間性の教育を学ぶ。	株式会社ラ・デタント
販売小売学	小売業の役割や法令・接客販売の技術や顧客心理などの基礎知識を学ぶ。	イー・マネージ・コンサルティング協同組合
経営マネージメント	企業や学校、病院などの組織を上手にマネジメント（経営、運営）するための考え方や方法論を学ぶことで、広く個人や組織、社会を見る目を養う。事例にもとづく、具体的な活用に資することに留意する。	イー・マネージ・コンサルティング協同組合
公衆衛生・感染症学（寄生虫学含む）	病原体の分類、性状等を理解し、感染や病害発生のメカニズムを学習する。動物から人間へ感染する疾病の理解と予防、対策を含めた衛生管理の知識を学ぶ。主に犬猫に感染する寄生虫の形態や生活環など基礎を理解し、検査方法および虫卵の鑑別についても習得する。	有限会社サエキベテリナリィ・サイエンス
動物行動実習	犬の行動様式、学習原理を理解したうえで、基本的なしつけトレーニングを実践する。診療時における誤った行動の学習を防ぎ、適切な対応ができるようになる。また飼主が犬との良い関係が構築されるよう、トレーニング法と問題行動の予防方法を説明・指導できるようにする。	株式会社アニマルライフ・ソリューションズ
動物臨床検査実習	血液検査・糞便・尿検査などの診断へと導く重要な検査についての意義を理解し、技術を習得する。	鳥と小動物の病院　falconest
動物看護実習	動物の状態を的確に把握する能力と臨床で必要な看護技術を身につける。	桑原動物病院
建築・住環境実習	動物の行動学に基づき、人と動物が快適に生活するための知識を習得する。また、福祉と動物と住環境を考え、福祉住環境コーディネーター3級の合格を目指す。	有限会社ファウナ・プラス・デザイン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

「教員等の研修に関する規程」により、本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で、高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。
校長は、教育職にある者に対し、教員の業務経験や能力を勘案し、日常の業務を通じて必要な研修を命令する。また、事前に計画し、校長に承認を得た者は企業と連携した研修を認めている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修者名	研修先【研修内容】	研修期間
柳原由紀	動物とのドリームプランプレゼンテーション実行委員会 【第2回「どうぶつとの幸せ」ドリームプランプレゼンテーション参加】	平成30年4月15日
三井千春	全国動物専門学校協会 【A級検定員対象研修会】	平成30年8月28日
齊藤利章	東京都福祉保健局　動物愛護相談センター 【平成30年度　動物取扱責任者研修】	平成30年9月18日
末松麻依	一般社団法人全国動物専門学校協会 【日本動物看護学会　第27回例会　動物看護教員研修】	平成30年10月28日
櫻井美香	一般社団法人全国動物専門学校協会 【日本動物看護学会　第27回例会　動物看護教員研修】	平成30年10月28日
髙嶋奈央実	一般社団法人JAPAN KENNEL CULB 【川崎クラブ連合会展】	平成30年11月18日
末松麻依	獣医臨床寄生虫学研究会 【平成30年度　研究例会】	平成29年8月3日
本郷奈美	東京都福祉保健局　動物愛護相談センター 【平成30年度　動物取扱責任者研修】	平成31年2月14日

②指導力の修得・向上のための研修等

研修者名	研修先【研修内容】	研修期間
玉井沙也加	一般社団法人　職業教育・キャリア教育財団 【専修学校教員教職課程研修会】	平成30年5月11日～11月13日
飯塚圭介	専門学校コンソーシアムTokyo教育の会 【教授力向上研修】	平成30年8月6日、8月8日
玉井沙也加	専門学校コンソーシアムTokyo教育の会 【教授力向上研修】	平成30年8月6日、8月8日
天野雅弘	専門学校コンソーシアムTokyo教育の会 【インストラクショナルデザイン研修】	平成30年8月6日、8月8日
臼井明子	専門学校コンソーシアムTokyo教育の会 【インストラクショナルデザイン研修】	平成30年8月6日、8月8日
飯塚圭介	日本ウエイン株式会社　秋季オールペット用品フェア 【ペット用品の知識向上】	平成30年9月11日
大塚謙伍	日本ウエイン株式会社　秋季オールペット用品フェア 【ペット用品の知識向上】	平成30年9月11日
天野雅弘	公益社団法人　東京都専修学校各種学校協会 【学生・生徒にすぐ使える解決志向のブリーフセラピー】	平成31年1月31日
山﨑隆史	一般社団法人　専門職高等教育質保証機構 【職業実践専門課程　質保証・向上セミナー】	平成31年2月22日
大塚謙伍	ジャペル 【ペット用品の知識向上】	平成31年3月7日
大塚謙伍	公益財団法人　東京都専修学校各種学校協会 【就職指導担当者セミナー「コミュニケーションが苦手な若者へのキャリア支援】	平31年3月15日

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・平成30年度　動物取扱責任者研修（東京都福祉保健局　動物愛護相談センター）
・教師講習会（一般社団法人全国動物専門学校協会　主催）
・セミナー、講習会　随時実施、参加

②指導力の修得・向上のための研修等

・専修学校教員教職課程研修会（一般社団法人　職業教育・キャリア教育財団　主催）
・教授力向上研修（一般社団法人専門学校コンソーシアムTokyo主催）
・インストラクショナルデザイン研修（一般社団法人専門学校コンソーシアムTokyo主催）
・その他　指導力の習得・向上のための研修会へ参加

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央動物専門学校運営指針に則り自己評価を実施する。
実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。
また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像は定められているか ②学校における職業教育の特色は何か ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④理念・目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか
（2）学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②学則・細則・内規等は整備されているか ③業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ④教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	①各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか ②カリキュラムや教育方法の工夫・開発・見直しが適切に行われているか ③授業評価の実施体制はあるか ④資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑤成績評価の基準は明確になっているか ⑥教員資質向上のための研修が行われているか
（4）教育成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
（5）学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥保護者と適切に連携しているか
（6）教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の募集と受け入れ	①学生募集活動は、適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか ④学納金は妥当なものとなっているか
（8）財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適性に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
（9）法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ④自己評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流（留学生）	①留学生の受け入れについて戦略を持って国際交流を行っているか ②留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学習支援について、適切な体制が整備されているか

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

① 卒業生、在校生の社会的な活躍を学校側が把握しているかどうかが課題となってくる。
② （3）教育活動の3-6においては、評価が3となっているが、教える側が新しい情報を入れ研修するのは当然であることから、評価を4に上げるべく教員の質向上に努めてもらいたい。
③ 同窓会と連携し、卒業生の離職率、転職率を1、3、5年後と把握し、今後に活用、学生の獲得に繋げていく。
④ 校有犬を通して学校で犬の飼育ができる、特にパピィを飼育できるという本校の特色、特化した部分を今以上にアピールしていくと良い。
⑤ 動物愛護、動物福祉に関して、教職員全体が統一した見解で学生指導にあたってほしい。
⑥ 学科を超えて、それぞれの職員が互いに他の学科への理解をもっと深めるべき。
⑦ SNS、インスタグラム等を効果的に活用し、学生募集の成果に繋げていく。
⑧ 防災設備に関して、災害備蓄品については、本校は全学生分、全教職員分が確保されている。昨今、自然災害が頻発しているなか、安心安全な環境が確保されている学校であるということをもっとアピールしてはどうか。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2019年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
新井富士雄	東田端自治会長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	近隣・地
大野　公嗣	一般社団法人　全日本動物専門教育協会　専務理事	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	業界団体
田中　　淳	中央動物専門学校　卒業生	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	卒業生
會田真由美	中央動物専門学校　保護者	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	保護者
小山田千秋	株式会社スタンダード　オールペット事業部　取締役	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	企業
伊澤　伸元	鳥と小動物の病院falconest　院長	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	企業
鹿野　正顕	株式会社アニマルライフ・ソリューションズ　代表取締役	2019年4月1日～2021年3月31日（2年）	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　　　　　　　　）　）
URL:　https://www.chuo-a.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
概ねホームページで公開しているが、学校行事等に関しては適宜、ブログにて情報公開を行う。
特に関連する企業等及び外部講師に対しては、年度開始にあたり会議を開催し、その際、校長から学校概要・運営指針等を説明し、実務教育及び教員研修における連携依頼や学生の就職・研修先の紹介の依頼、様々な教育活動の情報公開も行う。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②教育方針 ③学校概要（理事長名、校長名、所在地等）
（2）各学科等の教育	①修業年限・定員 ②学科の特徴、実習内容 ③カリキュラム、時間割 ④資格取得 ⑤卒業後の進路
（3）教職員	①教員紹介 ②教員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	①実技・実習を中心とした職業教育への取り組み ②企業等と連携した校外実習（インターンシップ）
（5）様々な教育活動・教育環境	①教育施設の紹介 ②学校行事のスケジュール ③学校行事の報告 ④その他活動の報告
（6）学生の生活支援	①学生寮の紹介 ②資格取得支援 ③就職支援
（7）学生納付金・修学支援	①学費・諸費用 ②奨学金制度 ③学費減免制度
（8）学校の財務	①計算書類（資金収支・事業活動収支・賃借対照表・収益事業） ②監査報告書（監事・独立監査法人）
（9）学校評価	①自己評価・公表 ②学校関係者評価・公表
（10）国際連携の状況	①留学生の受け入れ ②留学生の学習支援
（11）その他	①校有動物の情報 ②学友会・同窓会の情報

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
URL:https://www.chuo-a.ac.jp/index.html